

天明三卯年七月八日
浅間焼一件留
年次不詳(近世)

七月六日出立、伝四郎母に同道し、善光寺
参り、八日大勸進様仰聞かされ候は、
浅間山焼流死人ため、朔日より十一日迄
施餓鬼執行いたし候、御経木
遣し度く候はば、洩れざる様相届呉候様
御申し成され候由、右御経木廿九日迄に
相届け
高四千五拾七枚
此わけ

一御経木四百六拾六枚
流死人數四百六拾六人
右之通頂戴仕り有難く存じ奉り候
辰七月晦日 鎌原村
名主 半兵衛

①9 [天明三卯年七月八日
浅間焼一件留] (部分)

年次不詳(近世)

天明4年(1784)7月に信州善光寺の
大勸進貫主の等順が流死人追善回向の
ために行った施餓鬼供養に際して、被災
地に届けた経木塔婆の数を記したもの
です。等順は、江戸東叡山寛永寺護国院
出身の高僧で、天明3年の浅間焼け直後
に被災地の鎌原村に入り、30日間にわ
たり念仏供養や食料支援などを行った
ことでも知られる人物です。浅間焼けで
は等順のほかにも各地の僧侶が被災者
支援を行ったことが記録されています。

【史料①9】 [善光寺施餓鬼供養経木注進]

〔読み下し文〕

(前略)

一七月六日出立、伝四郎母に同道し、善光寺
参り、八日大勸進様仰聞かされ候は、
浅間山焼流死人ため、朔日より十一日迄
施餓鬼執行いたし候、御経木
遣し度く候はば、洩れざる様相届呉候様
御申し成され候由、右御経木廿九日迄に
相届け
高四千五拾七枚
此わけ

式千五拾七枚 鎌原より渋川

川原嶋迄

廻文御帳面

老冊添遣す

式千枚 大前より北牧迄

右同断

七月晦日、大前・鎌原へ遣す

長次

覚

一御経木四百六拾六枚

流死人數四百六拾六人

男児百四拾五人
女児百廿五人

右之通頂戴仕り有難く存じ奉り候

辰七月晦日 鎌原村

名主

半兵衛

(後略)